【株式会社アグリーンハート 取組紹介】

＜会社概要＞

2017 年、黒石のお米農家の６代目：佐藤拓郎(Takuron)によって創業。
地域農業の未来を考えると大規模化の運営が必須のため、農業に興味ある人材を受け入れ、雇用就農という形での次世代人材育成環境を整備。『笑顔農業・感謝農業』を掲げ、地域のファーストコールカンパニーを目指している。

＜主な取り組み＞

▼【地域農業の未来を見据えた２つのビジネスモデルの実践】
～低コスト大量生産型と高付加価値生産型～

数年後、将来的には２００ha 規模の運営をしないと地域生産力が落ちるという考えから、既存の農家はこのどちらかに特化しないと生き残れない、と考える２つの農業をどちらも実践中。
株式会社オプティムや東北農研機構などと連携し、国内最先端のスマート技術を導入(実証実験)。経営面積の７割以上を直播にし、ローコスト化をはかる一方、主に山間地を有効利用した有機農業にも力を入れている。３認証という付加価値を持って、１年目から１俵 84,000 円での販売に成功。収量が少なくても十分に利益を上げられる構造を実現。
（農福連携場面で作業する障害者さんには最低賃金以上を支払っています。これを実現するには生産物に付加価値が必要と考えています。農福連携を拡大する為に有機農業はとても有効です）

▼【自然栽培で休耕地転換「安入」プロジェクト】

市内に休耕地(耕作放棄地ではない)が 230ha あることに注目。草だけ何十年も刈り取っている状況を見て、肥料・農薬が抜けて、自然の循環が戻っているのではと考え、休耕地を自然栽培(無肥料・無農薬・無堆肥)で活用。山間地の川に含まれるミネラル、ケイ酸、酸素のおかげで稲作においては無肥料でも十分育つ。保全管理のはずの草刈りが有機農業の起算点になり得ることを指摘し、転換１年目から有機 JAS 認証の取得に成功した。
＊農林水産省主催「平成３０年度未来に繋がる持続可能な農業推進コンクール」の有機農業部門で生産局長賞受賞。

▼【ノウフク JAS 認証】
農福連携は創業前、父の経営体時代からの取り組み。代表：佐藤の親戚に事故や病気で障害者となった人が数人いて、その人たちが生きがいを持って生活できるような環境を、農業から構築できないかと考えている。主に自然栽培の作業工程で取り組んでいる。2017 年に GLOBAL G.A.P を取得し、2018 年に有機 JAS を取得。現在、この３認証の経営体は国内でアグリーンハートだけとなっている。

GLOBALG.A.P.
GGN: 4059883236101
RROFI
ノウフク JAS 日本基金

▼【東京都世田谷区直営店　「DAITADESICA from aomori」】
2020 年 4 月 13 日 OPEN

小田急が下北沢～世田谷代田間を地下化した為、都市開発が行われていたところに、縁があって出店。小田急と東京農大が連携した、地域住民と”食”を通じて密着するというコンセプトの建物「東京農大キャンパス」の中にテナントがある。世田谷代田駅前。
アグリーンハート代表：タクロンが 2014～地元 TV 局のコーナーで知り合った農家・漁師を中心に青森県中の美味しいものを発信するだけではなく、「人と物語を伝える」というコンセプトで普通のアンテナショップより狭くて深い商品ラインナップが特徴。
世田谷代田駅周辺の密集度の高さに注目し、店の半径 1km(人工 60,000 人)を商圏とした地域密着の展開を目指している。お米の定期宅配はじめ、地元住民に自然栽培の米づくりをリモートで体験してもらう「だいたんぼプロジェクト」など、超密着型の”届ける農業”の形づくりを推進中。

▼【経営規模推移】

	経営規模	うち低コスト大量生産面積	うち高付加価値栽培面積	従業員数	主な出来事
2017	33 ha	32.4 ha	0.3 ha	4	<法人化>GLOBAL G.A.P 取得 休耕地転換開始
2018	42 ha	39.0 ha	3.0 ha	7	有機 JAS 取得
2019	57 ha	48.0 ha	9.0 ha	10	ノウフク JAS 取得 関連加工会社「ビオ・フローズン」設立
2020	60 ha	51.0 ha	9.0 ha	14	東京都世田谷区に直営店出店

＜関連会社＞

▼【株式会社ビオ・フローズン】2019.6 創業

アグリーンハートで生産した有機野菜を冷凍加工するための会社として創業。冷凍加工はボイル、冷凍、パック、と比較的簡単な作業のため、付加価値づくりに農福連携を構築できるのではという考えから冷凍加工へ参入したが、研究途中でリンゴ加工品開発に関わり、そこでリンゴを使って薔薇の氷花「アプローズン」(商標登録済・特許出願中)を開発した。またまだ未発表だが、アプローズンチップスも今後発表予定。

▼【株式会社 bloomin】2020.7 創業
ビオ・フローズンでアプローズンの開発に携わった女子大生：黒田が、アプローズンを売るために創業。アプローズンと今後発表予定のアプローズンローストが主力商品。

▼【株式会社 彩りの食卓】2020.6 創業
県内のこだわり農産品を発信する EC サイトを運営する会社。生産者主体の”不定期”な宅配システムの構築を目指す。生産者の志に出資してもらい、生産者と消費者の密な信頼関係の構築が目標。代表：小田桐と佐藤(アグリーンハート代表)がセレクションした厳選食材のみ扱う。現在、サイト構築中。

＜代表紹介＞

■農音楽家：Takuron　（本名：佐藤拓郎）
1981 年 9 月 13 日生まれ。６代目の農家として黒石市に産まれる。
１８歳のとき、４代目である祖父の経営が破綻し、経営権は父に代わり、高校卒業と同時に家業に就農。高校時代からバンド活動を始め、
16 歳から毎月行ってきたイベント企画を通じて経営感覚を習得。農業・音楽・芸能・講演など様々な形で自分発信するマルチな農音楽家。

▼現在の主な肩書き/役職
シンガーソングライター
黒石市観光大使
青年農業士
青森県学校教育サポーター
青森テレビ「わっち！」毎週水曜日「農 music 農 life♪」レポーター
青森県総合計画審議会 産業雇用部門 委員
あおもり ICT 利活用推進プラン検討懇話会 委員
株式会社 アグリーンハート代表取締役
株式会社 ビオ・フローズン代表取締役
株式会社 彩りの食卓 取締役
株式会社　bloomin 取締役

▼各詳細
■シンガーソングライター
＝CM や地元のお祭りテーマソングなど多数提供。2019 年の県産品愛用応援キャンペーンにも楽曲提供。「あおもりのうまいもの」は現在も県内のスーパーの産直コーナー等で流れています。この曲は県庁の HP でダウンロード可能。青森テレビのコロナに負けるなキャンペーン CM ソング提供。

■黒石市観光大使
＝平成２６年から様々なメディアでの活動を評価され担当。

■青森県青年農業士
＝県に認定された農業士。第６６１号。

■学校教育サポーター
＝県内の小学校、中学校、高校、大学へ、農業の魅力についての出張授業や、創業・企業についての講演活動を行なっている。

■TV リポーター
＝農業をしながら音楽活動をしている事で、ATV の夕方の情報番組「わっち」の毎週水曜日のコーナー「農 music 農 life♪」で県内の農林水産品を紹介するコーナーのリポーターを担当している。

■青森総合計画審議会 委員
知事より委嘱されている、産業・雇用部門の有識者委員会。農業部門代表。

■あおもり ICT 利活用推進懇話会 委員
副知事より委嘱されている、県のあらゆる部門の ICT 推進への有識者委員会。農業部門代表。